

新川（千葉県）

新川は私の故郷に流れている川だ。私の故郷は千葉県の佐倉市で、台地を切り開いた比較的新しい住宅地ということで、あまり川や海を身近に感じることはない場所であった。新川が流れる道もめったに通らないので、年に二、三度見るか見ないか程度の川であった。今回川のレポートを書くことになるまで、その川は私にとって名もない川であり、レポートを書くためにいろいろ調べた結果、初めて新川という名前なのだと知った。これも今回初めて知ったのだが、新川は印旛沼から流れ出ている川であり、そのまま花見川、検見川と名前を変え、東京湾に流れ出ている。



現在の新川

家の裏手を流れているその川は、とにかく汚い。橋の上を車でサッと通り過ぎただけで、十分に川が汚いことがわかる。水は濁っていて底は見えないし、岸边には空き缶とか、ビニール袋とか、そういったものが溜まっているのが見える。魚がいるかどうか確認することはできない。この川で好んで泳ぐ人はいないだろうと思う。流れはそんなに速くはなく、ゆったりとしていて、あまり新川に対して危険そうだというイメージを持ったことはない。むしろ水が滞っているような気がして、だから水がこんなに汚いのではないかという気がする。川の周りには自然が多く、田んぼや大きな公園や野球場がある。そのため橋の上からの視界はよく開けていて気持ちがいい。もし川が綺麗だったらとても歩いていて気持ちがいいだろうと思う。川幅は100メートルもなく、せいぜい80メートルくらいで、ゆったりと流れている。

川との関わり、衝撃を受けた幼少時代

前述したとおり、新川、というより川というものは、あまり私の日常生活に関ってはいなかったが、年に一度だけ大きく関わる時があった。それは夏の花火大会の時である。毎年夏になると、新川の流れのもととなっている印旛沼で花火大会を行うのである。私の住んでいた場所は少し遠く離れていたため、

家族みんなで自転車に乗り、川沿いのサイクリングロードを迷いながら走っていった記憶がある。自転車で走行中に見た川はやはりゆったりと流れていて、周りにも木々が生い茂って緑が多く、非常に美しいものとして目に映った。しかし、いざ目的地の印旛沼に近づき川辺に自転車を止めて見てみると、水は濁っていて非常に汚く異臭がして、周辺にはゴミがたくさん捨てられていて、ひどくがっかりしたのと困惑した覚えがある。異臭の原因もすぐにわかった。死んだ魚がたくさん川辺に打ち上げられていたのである。一番衝撃を受けたのは亀の甲羅を発見したときである。両手を広げたくらいの大きな亀の甲羅だけ岸边に落ちていたのである。今思えば亀を飼っていた持ち主が、亀が死んでしまったあとに亀の甲羅を捨てただけかもしれない。しかし、当時幼かった私は亀はこの汚い水のせいで死んでしまったのだろうと真剣に考えた。そう思わずにはいられないほど川は汚く濁っていて、早くその場から立ち去りたくて仕方がなかった。

佐倉市には十年ほど前に引っ越してきたので、両親はそんなに昔の川の状態は知らないが、やはり引っ越してきた当時から川はあまり綺麗ではなかったといていた。しかし、父が言うにはこの川のもとである印旛沼ではフナなどの魚を釣ったり、飲料水として利用したりもしているとのことであった。昔は今以上に周辺に山や田んぼなど自然が多かったため、眺めはなかなかよかったということであった。

新川の Web-page

新川について調べたところ、「Wikipedia」の印旛沼放水路のページでわずかに取り上げられていた。それによると印旛沼から東京湾の間で八千代市保品の阿宗橋（あそうばし）から大和田機場にかけてを新川と呼び、大和田機場が印旛沼の水位調節のために年に数回程度以下の放流が必要ということだ。しかし、放流回数が少ないと水質が悪化する危険性があるので防止対策として、「印旛沼流動化放流」と称して数十回程度の放流を行っている。また、「Tatsuya Saito's Fishing Page」では新川はバス釣りのポイントとして紹介されており、新川は全長約 10km の河川であり、平均水深は 2m, 平均川幅は 50m であるとのことだ。やはり小さい川であるためか、あまりホームページなどで紹介されていなかった。

しかし、一方で、やはり日本で三番目に大きな沼であるだけに、新川のもとである印旛沼に関するホームページは多数あった。なかでも印旛沼の水質に関して記述しているものは多く「Wikipedia」によると、水質汚染は手賀沼に次

ぐ全国有数のレベルで、近年は手賀沼のほうが水質指標は若干良好とのことである。これに対し、どうにかしようとする動きは多く、「印旛沼広域環境研究会」のホームページでは、環境資源である印旛沼の浄化と、沼を取り巻く環境の整備の促進がうたわれている。印旛沼は新川の源であるので、印旛沼の水質汚染は新川にも関わってくる重要な問題である。私たちは新川を綺麗にするためには、印旛沼の美化にまず携わらなくてはならないだろう。

川に期待するありかた

私にとって新川に一番に期待することは、綺麗であってほしいということである。私が故郷の川を思い浮かべるとき、残念なことだが一番の記憶の中よみがえってくるのは、もぬけの殻になった亀の甲羅と、なんともいえない寂しさなのである。やはり、故郷の川をぱっと思い出すときは、それは綺麗な川であってほしい。緑と生命力に溢れていて、心を懐かしい気持ちにさせるような、そんな存在であってほしいと思う。今回調べることによって、新川の水質が印旛沼に直接関わっていることがわかり、水が汚かった原因を前より理解することができた。今印旛沼の改善に対するさまざまな取り組みも行われているようだ。これからは以前よりも積極的にそういったものに目を向けていけたらと思う。そして、自分たちより後の時代に住む人が、川を思い出したときに真っ先にガッカリするような川を思い出さないようになればいいと思う。いつか新川が泳げる川になってほしい。

参考文献

『Tatsuya Saito's Fishing Page』

<http://www3.airnet.ne.jp/junk/fishing/index.html>

『Wikipedia』「印旛沼」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A5%BF%E5%8D%B0%E6%97%9B%E6%B2%BC>

『Wikipedia』「印旛沼放水路」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%B0%E6%97%9B%E6%94%BE%E6%B0%B4%E8%B7%AF>

印旛沼広域環境研究会

<http://homepage3.nifty.com/npoinba/>